

先進医療のその先へ

～何がポイントとなるのか～

日時 10月25日(金) 17:40～18:40

会場 第6会場 2F Room B-2 (国立京都国際会館)

座長

荒井 宏幸 先生
みなとみらいアイクリニック



先進医療における「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」の終焉が近づいている。2008年から国内各地で導入され、11年が経過した。この制度により、多焦点眼内レンズが広く国内に普及したことは、間違いないであろう。積極的に導入した施設では、その恩恵も大きかったはずである。

モデレーター

岡 義隆 先生
岡眼科クリニック

新見 浩司 先生
新見眼科

本セミナーは、多焦点眼内レンズが先進医療から外れた後のプランを議論することを目的とした。多くの努力により獲得した多焦点眼内レンズのノウハウを、今後どのように生かして行くのか、大いに興味のある内容である。

演者

先端医療として施設の先進性を維持するため、自費診療としての収入を維持するためなど、施設により継続する目的は様々であろう。

今回は、3名の演者に講演をして頂く。

岡眼科の岡義隆先生には、多焦点眼内レンズの継続には設備投資が重要な戦略であることをご講演頂く。

アイケアクリニックの佐藤香先生には、本年に認可された3焦点レンズであるPanOptics®を軸とした戦略をご講演頂く。

そして座長の荒井からは、世界で使われている最新の多焦点眼内レンズを導入してバリエーションを増やす戦略をお話する。

来年とも言われている先進医療の終了後、どのような方向性を持って多焦点眼内レンズを継続・発展させてゆくのか、議論してみたい。

「設備投資がポイント」

岡 義隆 先生
岡眼科クリニック



「3焦点レンズがポイント」

佐藤 香 先生
アイケアクリニック



「IOL バリエーションがポイント」

荒井 宏幸 先生
みなとみらいアイクリニック

